

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所属・職・氏名	西宮市立苦楽園小学校 教諭 有元 宏次	研究グループ名 (支持的風土研究会)
-------------	------------------------	-------------------------

研究テーマ分類番号 (1)

(1)研究テーマ

支持的風土のある集団をめざして
～よき応答のある授業をめざして～

(2)研究経過及び具体的な取組

6月5日 研究全体会

・内 容：支持的風土についての共通理解

6月7日 研究授業事前研究会

・内 容：2年生国語科「お手紙」指導案検討およびクラスの児童理解

6月22日 事後研究会(2年)

・内 容：2年生国語科「お手紙」授業評価、
支持的な子どもの発言、教師の姿について討議・検討

7月2日～6日 Q - U の実施

・内 容：各学年でQ - Uを実施，クラスでの集計

7月9日 Q - U の評価と分析

7月18日 研究全体会

・内 容：Q - U の結果の共通理解及びデータ化

8月23日 Q-U研究会への参加

・場 所：苦楽園中学校

・内 容：Q - Uを活かした学級の見とり，具体的な取り組みの例

8月29日 研究全体会

・内 容：Q - U の評価と分析、抽出クラスの評価分析

・分析結果：昨年度との比較から、不満足群にいつもいる児童を抽出、共通理解
全国平均を上回る結果から、学級や学校の状態のよさを共通理解

10月22日 研究全体会(研究授業事前研究会(5年))

・内 容：5年生総合的な学習「わたしの休日リニューアル」
指導案検討・児童理解

11月19日 研究全体会(研究授業事前研究会(5年))

・内 容：5年生総合的な学習「わたしの休日リニューアル」
授業評価

支持的な子どもの発言，発言を促す教師の姿について討議・検討

12月 Q - U の実施及びQ - U の評価と分析を実施中

【成果と課題】

- 本年度と昨年度の比較により、本校の学級や学校の状態を捉える一指標となった。
- 教師の観察や主観と子どもの回答を重ねる事で、児童理解の一助となった。
- 児童の状態をよりよく改善していく組織的な取り組みを具体的にしていく必要がある。